

復活節第4主日

福音朗読 ヨハネ 10・1-10

2023.4.30 9:30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

毎年、復活節の第4主日——今日もその日ですけども——の福音では、ヨハネの福音書10章から部分的に朗読されます。その10章では、羊飼いととしてのイエス様のお姿を語っているということになります。今日の福音もそうでした。

羊飼、伝統的な教会の言い方をすれば「よき牧者」と言いますが、よき牧者としてのイエス様の姿はわたしたちが信仰を通して教えていただいている大切なことを表わしています。それは、イエス様の声を聞き、そのあとに従ってこそ、わたしたちは本当の意味で生きることができる、本当の意味での幸せに達することができる、ということです。イエス様の声、イエス様の呼びかけに聞き従う、イエス様の呼びかけを聞いて、そのあとに従って歩いて行くということ、教会の用語では「召命」と言います。

そこで、今日の復活節第4主日は、カトリック教会では1964年以来「世界召命祈願の日」とされています。そして、毎年この世界召命祈願の日には教皇様がその日のためのメッセージを出されるし、世界中の教会で心を合わせて祈りましょう、ということになります。何のために祈るのかと言えば、特に、狭い意味では、人生の選択をこれからしようとしている若者たちが、イエス様の呼びかけに基づいてそれぞれの人生の道を選択することができますように、というふうに祈るということになります。

でも一方で、イエス様の呼びかけに従うというのは人生のある一時期だけに行われるのではなくて、毎日毎日、毎瞬間・毎瞬間のことですので、若者たちだけではなくて、わたしたち一人ひとりがイエス様を通して神様から与えられる根本的な呼びかけ、一人ひとりの道や生き方、生きる場所は違っても、一つの根本的な呼びかけを改めて思い起こしましょう、という日でもあると言えます。

では、この神様からの根本的な呼びかけとは何でしょうか？

それは、愛するということです。

今年の世界召命祈願の日のメッセージの中でも、フランシスコ教皇様は改めてこのことを語っておられます。ちょっと引用します。

「神はわたしたちを、ご自分の似姿にし、ご自分の子としたいと望んでおられます。わたしたちは愛であるかたによって、愛のために、愛をもって創造されました。わたしたちは愛するために、造られたのです」。

このように教皇様はおっしゃるわけです。「わたしたちは愛するために、造られたのです」。この言葉の中に、人は何のために生まれたのか、あるいは何のために生きているのかという問いに対する信仰からの、または教会としての答えが表されている、それが答えであると言えます。人は愛するために生まれ、そして愛するために生きている。

教皇様はこのことを「わたしたちの存在の隅々に刻まれた、幸せの秘訣である呼びかけ」っていうふうに言われています。愛するために造られたわたしたちに「愛する者になるように」という呼びかけは、一人ひとりの中に、わたしたちをお造りになった神様によって刻まれていて、そして、その呼びかけに答えるときにわたしたちは本当の意味での幸せに達する。だから、その呼びかけこそが幸せの秘訣なんだというわけです。

しかし、ある人にとっては、愛する者になるということ、誰かのためにあるいは他の人のために自分を渡すという、「愛する」ということが幸せへの道なんだということは素直には受け取ることができない、ということも現実であると言わなければならないと思います。まだその言葉を本当に受け取る時が来ていない、十分な成熟に達していない場合もそうだし、愛することこそが幸せなんだっていう具体的な例を身近に見ることができない人、あるいは過去の出来事で傷ついて自分を守るために心を閉じている、いろんなそういう場合もあるかもしれません。自分の幸せがほかの誰かの幸せと繋がっている、自分がほかの人と繋がっているっていう感覚を良いこととして受け取ることができない、今までのいろんな経験から人と人との繋がりを幸せへの道として理解できない。そういう場合もあるわけです。

わたしたちは愛するために生まれて、愛することが幸せの秘訣なんだっていうことを心から受け取ることができないで、外側から言われる言葉としてのみ聞くときには、それは自分の人生を他のために用いようとしている他の誰かの企みというか、自分の人生が盗まれてしまうんじゃないか、そんなための言葉なんではないかというふうに受け取る、自分が生まれてきた理由は自分の思いが実現して自分が幸せになるためなんで、他の人のために何かをするということとは関係ないんだって言い聞かせたくなる、あるいは正直言ってそういう思いの中にあるという人もいます。あるいは、わたしたちも、時にあるいは今もそういう思いが心の半分以上を占めているかもしれません。

あなたは愛のために造られて、愛するために生き、そしてそれが幸せの道なんだ、というのは、神様からの呼びかけであって、言うなれば恵みですから、無理矢理に自分の行動基準として課していくようなものではない。それは、聖書を読めば、神様が人生の方向性として与えてくださった律法が、心から受け取ることができないときには一人ひとりを縛っていくような足枷とか重荷のように思えるという、神の民の歴史の中にも表われています。

でも、その呼びかけというのは恵みですから、神様の思いの中で、神様のやり方で実現していくものなんです。教皇様はメッセージの中でこのようにおっしゃっています。わたしたちの存在に刻まれた幸せの秘訣であるこの呼びかけは、あるときには不意にわたしたちの中に押し入ってくる、突然それが「ああ、本当なんだ」と心を燃え立たせるときもあるけれども、通常は「歩みの中で、少しずつなされるものです」というふうにおっしゃってます。

「貧困の状況を目にしたときであったり、祈っているときであったり、福音書の確かなあかしや心を開いてくれる書物に触れたときであったり、神の言葉を聞いてそれが直接自分に向けられていると感じたときであったり、同伴してくれている兄弟姉妹から助言を受けたときであったり、病気のときや、死別の悲しみにあるときであったりと、わたしたちを招くための神の発想は無限です」。このように教皇様はおっしゃるわけです。

神様は一人ひとりの人生の中で一人ひとりに合った形で呼びかけていらっしゃる。それが恵みなんです。わたしたちはその恵みを恵みとして受け取ることができるように互いのために祈るように招かれている、ということだと思います。それが今日の世界召命祈願の日。神様が呼びかけるんだから神様だけがすることなんだっていうのではなくて、神様が呼びかけてくださり、わたしたちがそれを受け取ることができるように共に祈りましょう、って教会が定めている理由でもあると思います。

世界召命祈願の日というのは 1964 年から始まっていますので今年で 60 周年なんです。その 60 周年にあたって、フランシスコ教皇様は、第 1 回、1964 年 4 月 11 日に当時の教皇パウロ 6 世、今は聖人になっています聖パウロ 6 世教皇が呼びかけられたお祈りをメッセージの中で最後に引用されて、みんなで祈りましょうと呼び掛けていらっしゃると思いますので、最後にその部分を朗読したいと思います。

「魂の牧者である神、イエスよ。あなたは使徒たちを呼び寄せて、人間をとる漁師とされました。どうかまた、若者たちの熱く寛大な魂をご自分のもとに引き寄せ、あなたに続く者、あなたのために働く者としてください。彼らを、あまね

くすべての人の救いを求めるあなたの渇きに加えてください。世界全体へと続く地平を彼らにお示してください。あなたの呼びかけにこたえる彼らによって、この地上におけるあなたの使命が継続され、あなたの神秘体である教会が築かれ、彼らが「地の塩、世の光」（マタイ 5・13）となりますように」。

それぞれに向けられた神様の呼びかけを聞き分け、そして従うことができるように、互いへの祈りの心を持って、このごミサをお捧げしてまいりたいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>